

学習成果の自己評価（保育学科）

保育学科では「学習成果の自己評価」を平成23年度から改善を重ねて実施してきた。令和元（2019）年度卒業生は、実習を経験する前のⅠ期：1年生の8月、Ⅱ期：1年生の2月、Ⅲ期：本実習を全て終えた2年生の9月（幼稚園・保育所実習Ⅰ・保育所実習Ⅱ・施設実習が終了後）、Ⅳ期：就職活動を経験し保育実践研究を作成し終えた2月に、「学習成果の自己評価」を実施した。保育者に必要な資質能力についての自己評価で、＜人間性＞＜他者との協力＞＜コミュニケーション＞＜幼児教育についての理解＞＜保育についての理解＞＜子どもについての理解＞＜基礎知識・技能＞＜保育実践＞＜課題探求＞の9領域について4段階で評価している。

4：十分に理解（習得）できた 3：おおむね理解（習得）できた

2：理解（習得）に努力を要する 1：一層努力を要する

教育課程半期終了ごと自分自身の状況の評価し、到達度を省察した結果は下記のとおりである。

次の表図にはデータの揃っている1・2年生105名について上記4時点における「学習成果の自己評価」について検討した結果を示した。まず、2年生105名についての平成30年度からの2年間、4時点の分散分析の結果、全ての領域において時期ごとの平均評定値に有意な差がみられた。また全ての領域において、Ⅳ期の平均評定値が4時点で最も高い値になることから、学生は2年間を通じて学習成果を獲得したことを示しているといえる。しかし、4時点の平均評定値の変化過程は領域によって異なっており、その変化は一定ではないことがわかった。そこで、時期の継時的変化の特徴ごとに図にまとめた。

すなわち、平均評定値の4時点の変化は、Ⅰ期の自己評価が比較的 low、Ⅱ期とⅣ期で増加する領域（タイプ1）、時期を通じて常に自己評価が高まる領域（タイプ2）、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期までが増加する領域（タイプ3）の大きく3つのタイプがあると推察された。また、Ⅳ期において増加しており、Ⅱ期やⅢ期と有意な差が見られる領域（タイプ1変形）も推察される結果が示された。

まず、タイプ1は「幼児教育についての理解」「保育についての理解」「基礎知識・技能」の領域であった。3領域が含まれ、自己評価得点に2.56から2.68までと本学入学後に初めて向き合うこととなる領域であり、保育者を志向する学生にとって初めて直面する学びの課題であるため、Ⅰ期で3.0未満であることは適切な自己評価だと思われる。そして、学習が積み重なることで、Ⅱ期では自己評価が高まり、自らの学習に対する意欲も高まっている姿が推察されるが、Ⅲ期では実習という保育者としての職務に対して初めて現実的な形で向き合う経験を通し、自らの課題や未熟さに気づき、改めて学びの課題として気づき自己評価が低下した姿を推察することが出来る。そして、学習が再度積み重なり、自らの課題を解決していくための学習を積み重ねることで自己評価は全ての領域において最大値まで向上している。これらの領域がⅠ期での自己評価得点の高低の結果のまま、Ⅳ期まで大きくその位置を変えずに自己評価が行われていることも、適正な自己評価が行われている結果であると考えられる。加えて、タイプ1変形の「人間性」「他者との協力」は、Ⅰ期での得点をもっとも低く、Ⅱ期やⅢ期で変化はあまり見られないが、Ⅳ期においては、最大値まで上昇しており、タイプ1と経過時点での変

化に差異は見られるが、学習が積み重なり高まっている姿を推察することが出来る。

次にタイプ2は、「子どもについての理解」「課題探求」領域であり、自己評価は4時点で常に増加傾向にある。これは、短大での学習が段階を追って積み重って来ており、実習も含めた様々な学びの機会において、自らの成長を実感している結果であると推察できる。

そして、タイプ3は、「保育実践」「コミュニケーション」であり、特に1年次から2年次にかけて、対話的な学習を取り入れ、話すことと聞くことに関するスキルを伸ばすことに取り組んできていることや2年次前期までの段階的な実習での学習が積み重ねられた結果であり、実践的で体験的な学びを積み重ね、主体的に対話的な学びを目指す、本学の教育効果が示されていると思われる。

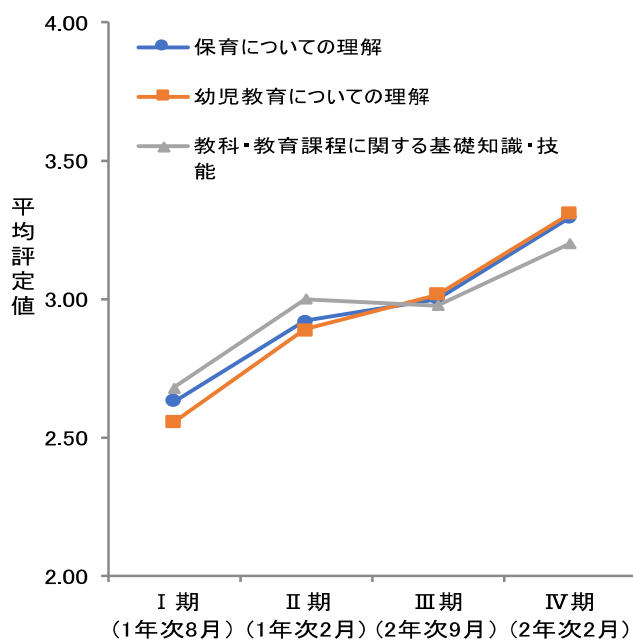
以上のことから、学習成果は単純な直線増加的に生じるものではなく、時期による経験の種類によって異なっているといえる。むしろ学習成果は自身の成長により理解できる事柄が増えることで新たな課題に気付けるようになり、成果の到達目標が変化することでより高められると考えられる。このようなプロセスを経て学生が学びを深めることが明らかになったことは「学習成果の自己評価」が適切に査定されていたことを示していると考えられた。

表 平均評定値の時期変化

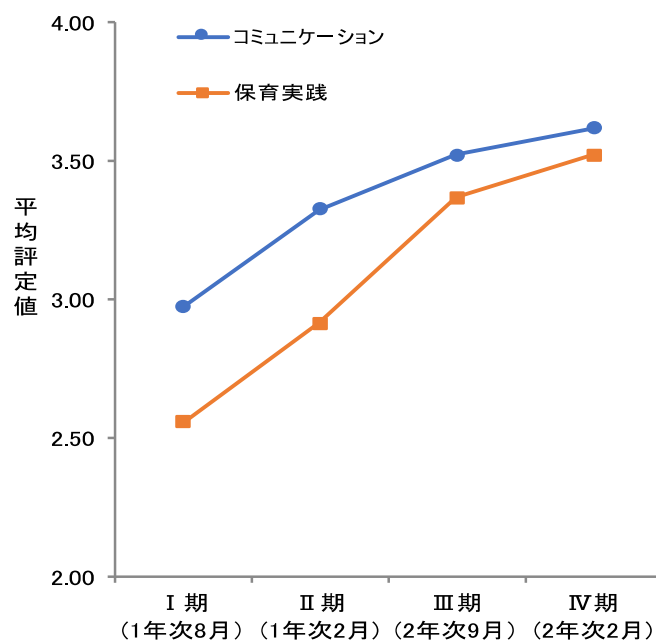
領域		I 期	II 期	III 期	IV 期	F 値	多重比較
		1年次 8月	1年次 2月	2年次 9月	2年次 2月		
人間性	平均	2.96	3.12	3.22	3.41	16.60	*** I < III < IV, II < IV
	S D	0.47	0.46	0.46	0.49		
他者との協力	平均	3.17	3.37	3.46	3.58	14.95	*** I < II・III・IV, II < IV
	S D	0.46	0.44	0.43	0.48		
コミュニケーション	平均	2.97	3.32	3.52	3.62	42.11	*** I < II < III・IV
	S D	0.54	0.45	0.38	0.38		
幼児教育についての理解	平均	2.56	2.89	3.02	3.31	48.49	*** I < II・III < IV
	S D	0.47	0.43	0.49	0.43		
保育についての理解	平均	2.63	2.92	3.00	3.29	39.48	*** I < II・III < IV
	S D	0.45	0.44	0.44	0.42		
子どもについての理解	平均	2.53	2.79	3.00	3.20	38.25	*** I < II < III < IV
	S D	0.49	0.45	0.45	0.46		
教科・教育課程に関する基礎知識・技能	平均	2.68	3.00	2.98	3.20	25.85	*** I < II・III < IV
	S D	0.44	0.41	0.42	0.42		
保育実践	平均	2.56	2.92	3.37	3.52	70.97	*** I < II < III・IV
	S D	0.67	0.49	0.49	0.41		
課題探究	平均	2.95	3.16	3.38	3.58	35.38	*** I < II < III < IV
	S D	0.51	0.44	0.47	0.42		

*** $p < .001$

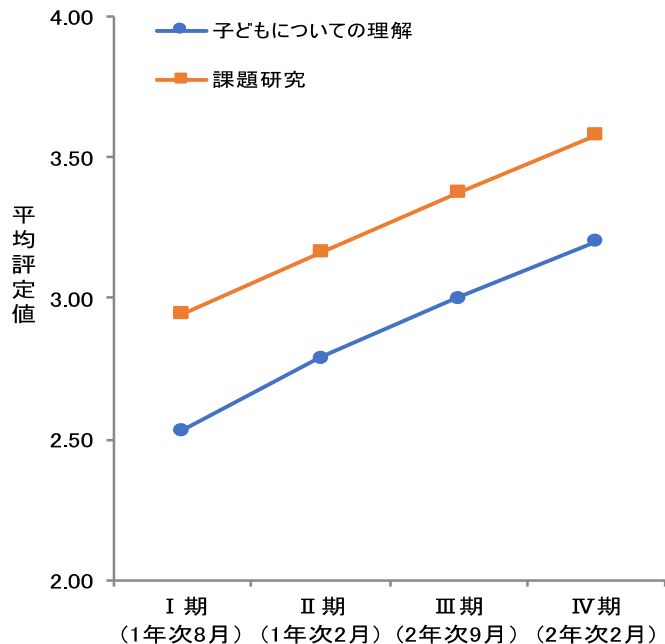
タイプ 1



タイプ 2



タイプ 3



タイプ 1 変形

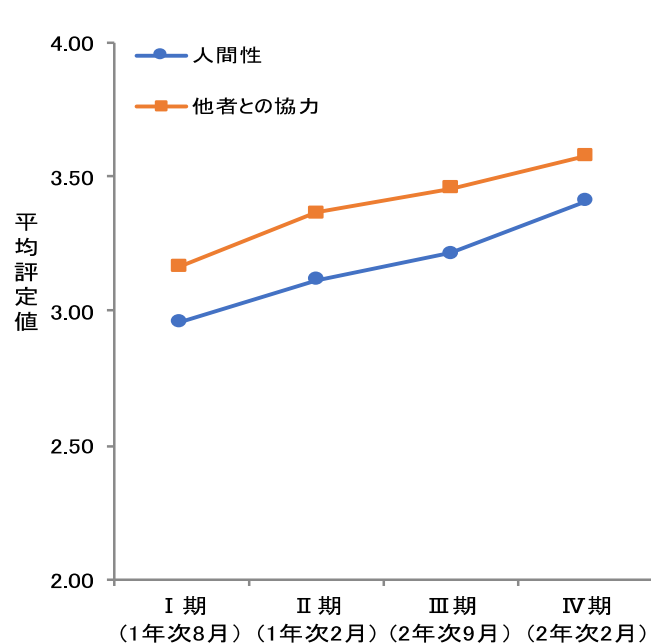


図 学習成果の自己評価の特徴的な変化

「学習成果の自己評価」から1年生のⅠ期と2年生のⅣ期を比較し、下表に示した。「平成30年度自己点検・評価報告書」で報告した課題であるⅣ期の平均評定値が3.0未満だった項目は無く、全て平均評定値が3.0を超える結果が示された。また、これまでの「自己点検・評価報告書」において課題として示した、教育・保育カリキュラムの理解のための科目の充実、保育の場では会う多様な子どもの姿を踏まえた保育のあり方を考案する科目の充実、幼稚園教育要領・保育所保育所指針の詳細な理解を図る科目の教授方法の改善、実践の専門科目との連携など、カリキュラムの検討と変更などに関わる、学科の取り組みがその成果として、昨年度と同様に継続して示されたと考える。特に、自己理解を中心とした「人間性」や協同性に関わる「他者との協同」において、前年度と比較して大きな向上の様子も示された。これらは、上述した学科における学習の取り組みの成果が学生にも自己評価として認識できるように結実した結果であるといえる。

しかし、このように課題が解決の方向に向かい始めたとはいえ、まだその評定値は3.0をわずかに超えたばかりであり、今後も検討を重ねて、更なる改善のための同様の取り組みを継続的に行なう必要がある。

表 1年生のI期と2年生のIV期の比較

項目	I期 (1年生8月)		IV期 (2年生2月)		IV-I	
	平均値	S D	平均値	S D		
人間性	自分の性格に関する自己理解	3.04	0.57	3.42	0.53	0.38
	自分の行動特徴に関する自己理解	2.88	0.63	3.36	0.61	0.48
	向上心	2.96	0.72	3.45	0.61	0.49
他者との 協力	表現力	2.89	0.71	3.29	0.60	0.40
	他者意見の受容	3.28	0.60	3.60	0.53	0.32
	保護者・地域との連携協力	3.21	0.66	3.57	0.52	0.36
	共同保育の実践実施	3.02	0.68	3.50	0.58	0.48
	他者との連携・協力	3.42	0.65	3.62	0.56	0.20
	役割遂行	3.15	0.65	3.62	0.60	0.47
コミュニ ケーショ ン	発達段階に対応したコミュニケーション	2.67	0.65	3.35	0.61	0.68
	子どもに対する態度	3.27	0.67	3.81	0.40	0.54
	公平・受容的態度	2.98	0.72	3.75	0.44	0.77
	社会人としての基本	2.96	0.72	3.58	0.57	0.62
幼児教育 について の理解	教職の意義	2.90	0.58	3.57	0.52	0.67
	教育の理念・教育史・思想の理解	2.39	0.57	3.20	0.53	0.81
	学校教育の社会的・制度的・経営的 理解	2.38	0.56	3.15	0.50	0.77
保育につ いての理 解	保育の意義	3.01	0.63	3.56	0.52	0.55
	保育の理念・保育史・思想の理解	2.48	0.56	3.19	0.51	0.71
	保育の社会的・制度的・経営的 理解	2.37	0.54	3.13	0.52	0.76
子どもに ついての 理解	心理・発達論的な乳幼児の理解	2.69	0.56	3.21	0.53	0.52
	クラス集団の形成	2.55	0.62	3.25	0.56	0.70
	子どもの状況に応じた対応	2.35	0.67	3.13	0.61	0.78
教科・教育 課程に関 する基礎 知識・技能	保育内容5領域	3.02	0.65	3.44	0.56	0.42
	幼稚園教育要領・保育所保育指針	2.53	0.61	3.25	0.54	0.72
	教育課程・保育課程の構成に関する 基礎理論・知識	2.53	0.57	3.10	0.52	0.57
	情報機器の活用	2.50	0.67	3.08	0.57	0.58
	保育の指導法	2.83	0.56	3.17	0.56	0.34
保育実践	保育構想力	2.32	0.71	3.42	0.55	1.10
	教材開発力	2.63	0.74	3.55	0.50	0.92
	保育展開力	2.77	0.86	3.62	0.51	0.85
	表現技術	2.52	0.78	3.49	0.50	0.97
課題研究	課題認識と探究心	3.14	0.66	3.70	0.46	0.56
	教育・保育時事問題	2.75	0.61	3.47	0.54	0.72